



巻頭言

ハルピン往訪

財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事
日産化学工業株式会社 常務取締役農業化学品事業部長

高橋 荘二

6月中旬、初めて、中国黒龍江省ハルピンを訪れる機会を得ました。ハルピンは私にとっては、是非一度訪ねたい処の一つでした。かつて伯父が、昭和の始め満鉄に勤務し、敗戦で命からがら帰国し、晩年、青春を賭けたハルピンを、懐かしく繰り返し語った処であります。そんな個人的なことは別としても、今、私共の除草剤が、華北3省の水稲に大きく普及し、ここまで来るのに、指導機関の皆様にご大変なお世話になってますので、その御礼も申し上げたいと考えていました。

偶々、北海道の農業大手卸「コハタ」さんが、この地でハム・ソーセイジの食品加工会社を設立され、大変なご苦勞の中で、ほぼ軌道に乗って来たと伺い、北海道の農業卸商の皆さんで、一度見学させて頂き、併せて、北海道と黒龍江省とは、農業使用状況が酷似しているとのこと、その様子も勉強出来たらと考えたものです。

大連、旅順、吉林と空路で、吉林ーハルピンまで鉄道で、洪水による遅延もあって、6時間の長旅でした。遅延が幸いして、車中、台湾の左官大工さんの一行と酒盛りとなり、隣席の旧満鉄退職の吉林老人も加わり、中国語、日本語、とつたない英語で、かつての日本の話に楽しい車中でした。

ハルピンは、北海道を越える大地でした。北3省の水田面積は、最近更に増加し、200万haを超し、黒龍はその3分の2を占めるとのこと。省植物站の責任者であり、著名なR先生に、その農業需要動向を講義頂き、発生雑草、病害虫全てが北海道と全くと言って良い程に似ていることに驚き、妙に親近感を覚えました。

ハルピン郊外に、珍らしい農業市場(いちば)があると聞き、出掛けました。秋葉原の電機街と同様、農業販売店が約100米のアーケードの両側に軒を並べ、店頭には、日本、欧米、中国の製品が積まれ、農家の人が買い求めています。目下年率6~10%で農業需要が伸びていて、農業が農家の方の必需品になっていることが背景にあるようです。日本がやゝ需要停滞気味である時、羨ましい限りです。私共の製品も推奨商品として並んでいると、つい嬉しく、店員と肩を並べて写真を撮る始末です。

水田地帯への案内は、農業科学院植物保護研究所のH先生でした。予定にはないが是非、お見せしたいと案内された田圃が、何と嬉しいことに、「植調」さんが依頼して下さっている私共のジャンボ剤の試験田です。H先生の配慮で、思いもよらず、見学の機会を得ました。H先生がジャンボ剤の試験を担当されているとは事前には知らず、また沢山の日本の指導機関の方とも知己があるとのこと。R先生とH先生も、ジャンボ剤への期待は大きく、効果が良く、散布コストが見合えば、広大な黒龍の水田への普及も大いに期待出来ると力説しています。試験田は、まだ散布後日が浅く、効果を判断出来る時ではありませんでしたが、その後帰国しての社内報告では、良好な結果を得ているとのこと、喜ばしい限りです。

近い将来、空路2時間で往来が出来る、広大な黒龍江省の水田で、ジャンボ剤が普及し、技術交流が進むことを願い、振り返ると、思いもよらず、今回の旅行は、「ジャンボ剤市場勉強会」となった次第です。